

日本共産党議員団 視察報告書

1 視察先・目的

- ・千葉県山武市
「木材バイオマスの利活用について」
- ・東京都町田市
「ごみ減量・リサイクルの取り組みについて」

2 期間

平成24年10月17日～10月18日

視察報告書

日 時	平成24年10月17日
視 察 先	千葉県山武市
視 察 項 目	木材バイオマスの利活用について
視 察 者	日本共産党議員団（黒川親治）
視 察 内 容	<p>山武市は、農林業と観光業を主産業としており、特に林業は同市の主産業を占める事業となっていた。しかしながら、現在では、近年の木材価格の低迷や森林所有者の高齢化による労働力不足などに加え、特産であるサンプスギ特有の「スギ非赤枯性溝腐病（木の幹の地上1～3メートル付近から溝ができ、立ち枯れを起こして倒木してしまう病気）」の蔓延のため、林業や木材加工業をはじめとした豊かな森林（サンプスギ）とともに生きる産業を振興することが大きな課題となっている。</p> <p>こうした背景から、山武市の木材バイオマス事業は、森林整備の推進と発生したサンプスギの残材を有効利用するため、千葉県木質バイオマス新用途開発プロジェクトに参加し、木材バイオマス事業を実施している。</p> <p>この事業では、豚舎への炭投与を実施し山武市の基幹産業である農地への試験的な炭入り堆肥として利用している「サンプスギ被害材の炭化事業」、コンパウンド化した木質チップから独自の技術で木質プラスチックを製造する「木質プラスチック事業」、被害木の独特の形状、色合いを活かし、デザイン性の高い家具の製造を目指す「サンプスギ被害材を利用した新しい家具づくりの試み」などの取り組みを行うとともに、今回の視察で訪れたさんぶの森交流センターあららぎ館を中心として市民、事業者等への周知、啓発にも努めていた。</p>
所 感	<p>当初、太陽エネルギー関連の事業を実施する予定であった山武市が、同市の地域資源に着目し、木質バイオマスの取り組みを行ったことは、高く評価すべきと考える。依然として、基幹産業である農業の高齢化や後継者不足、林業の不振などの問題は継続しているものの、この事業によって木材関連業者との連携による地場産業の育成に向けた意思を強く感じた。</p> <p>本市においても、太陽光発電、愛知用水を利用した小水力発電などの再生エネルギーを活用することが必要であると感じた。</p>

視察報告書

日 時	平成24年10月18日
視 察 先	東京都町田市
視 察 項 目	ごみ減量・リサイクルの取り組みについて
視 察 者	日本共産党議員団（黒川親治）
視 察 内 容	<p>町田市は、早くからリサイクルやごみの減量化に取り組んできた。</p> <p>地域におけるごみの減量や資源化、啓発等に関する活動を役割とし、町内会、自治会からの推選を受けた者を市長が委嘱する「廃棄物減量等推進員制度」や、一定の条件を有し、町田市内に住所を持つ10世帯以上で構成される団体に大型生ごみ処理機を貸し出す「大型生ごみ処理機貸し出し制度」などを実施するとともに、ごみ袋の指定と有料化を行ったことで、大幅なごみの減量化が図られた。しかしながら、プラスチックの資源化においては、市民への十分な説明がなされないまま進められたため、市民の理解が得られず、いまだ資源化が進んでいない現状があった。</p> <p>こうした状況の中、新たに大勢の市民の参加による「ごみゼロ市民会議」が発足し、ごみ問題解決に向けた提言が出された。この提言に基づき、同市は「町田市一般廃棄物資源化基本計画」を作成している。燃やすイメージの強い「処理」という言葉をあえて「資源化」という言葉に変え、あらゆるものを対象として資源化に取り組む、新たな資源化への取り組みを具体化し、ごみの減量化を進めていた。</p>
所 感	<p>町田市では、環境マスタープランの地球温暖化の問題・自然環境の保全・循環型社会の構築・生活環境の創造・環境に配慮した生活スタイルの定着といった5つの基本目標に沿って、ごみ問題に対してきめ細かく取り組んでいることに感心した。特に、現業職員は収集業務だけではなく、ごみ問題のデータソングの作成など、ごみ減量化のために様々な取り組みを行っていた。</p> <p>本市においても、現業職員が収集業務だけではない、ごみ減量化に取り組むシステムをつくる必要性を感じた。また、CO2削減に向けた取り組みなどをきめ細かく行う必要があると感じた。</p>